

公益社団法人 日本認知症グループホーム協会

## 次期（第七期）役員候補者所信表明

## 目 次

|                        |          |      |
|------------------------|----------|------|
| 1. 会長候補者               | ・・・・・・・・ | 1 頁  |
| 2. ブロック理事候補者           | ・・・・・・・・ | 3 頁  |
| 3. 監事候補者経歴             | ・・・・・・・・ | 9 頁  |
| 4. 河崎茂子会長候補者 推薦学識理事候補者 | ・・・・・・・・ | 11 頁 |

## 会長立候補者所信表明

### 認知症になったら我がグループホームに！ ～基本路線を堅持しつつ、さらに次の改革へ～

立候補者 河崎茂子

3年間のコロナウイルス感染症に対するグループホームの皆さまのご苦勞に、深く感謝を申し上げます。しかしながら、2類から5類になったとはいえ、まだまだ、課題は残っています。今後も気を引き締めてまいりましょう。

さて、本年10月、日本認知症グループホーム協会は、創立25周年記念の全国大会を東京・千代田区の砂防会館別館で行います。グループホームがたゆまず歩んできた25年の道程が、感慨深く思い返されます。と同時に、今や当協会は、全老健、老施協とともに、介護3団体として国への提言・要望の場での一翼を担うようになりました。認知症ケアを専門とするグループホームが、多くの国民の皆さまと国に、その存在感を認めていただけるようになった証左と、自負しております。私は、「やっとここまできたなあ」という思いでいっぱいです。

私が日本認知症グループホーム協会の会長を務めてきたこの10年間、協会は、グループホームが地域包括ケアの拠点として認知症の人とご家族、地域住民、さらに国民の皆さまにとって、認知症になっても安心、安全な心の支えであり続けるように取り組んでまいりました。その間一枚岩となって、常に協会を支えてくださった全会員の皆さまに、心より御礼申し上げます。

そして、このたび、会長として立候補するに当たり、次の項目を実現します。

1. 国にしっかりと認知症施策を提言できるグループホームを目指す。
2. 認知症の高齢者や若年性認知症の人に、常に寄り添えるグループホームを目指す。
3. 認知症の人の生活の場であるグループホームに、新しい試みとして、リハビリテーション等を実践し、その効果の実証を目指す。
4. グループホームの安定した経営のため、次期改正、改定に向けてしっかりと国に提言していく。

介護保険制度が発足して23年、今グループホームを取り巻く環境は、未曾有の人材不足、物価高騰の厳しい状況にあります。こうした社会情勢、経済状況に鑑みて、認知症の人とご家族、グループホームを支える職員とすべての関係者のために、私は全力を注ぎます。

公益社団法人  
日本認知症グループホーム協会





《北海道ブロック推薦理事候補者》

|   |   |
|---|---|
| <p><b>村上 睦</b></p>  | <p>S57 北海道医療大学薬学部卒業、(株)オストジャパングループ代表取締役、社会福祉法人博栄会理事長、グループホーム5ユニットの他特養、有料老人ホーム、サ高住等運営。</p> |
| <p>地域の認知症対策の拠点となるべく。</p>  |   |
| <p>グループホームが誕生して20年以上が経過しました。認知症で苦しむ患者様や家族の皆様は増加の一途をたどり、原因は解明されず治療はまだまだ確立されておりません。認知症で苦しむ方々の相談窓口として充実したケアを提供できる専門施設として充実熟成してきましたが認知症ケアの担い手としての人材育成の遅れは否めません。協会として経営のノウハウや介護報酬改定に関する国への働きかけを充実させ、資金面で無理なく人材確保が出来る体制をサポート出来るよう努力します。特定技能実習生の採用の方法や、採用先からの情報開示で海外人材の具体的活用事例を共有出来る仕組みを作りたいと思います。日本認知症グループホーム協会が目指すあるべき認知症ケアの実現に向けて貢献できるよう努力して行きます。</p> |   |

《東北ブロック推薦理事候補者》

|   |  |
|---|--|
| <p><b>下田 肇</b></p>  | <p>青森県出身。弘前大学医学部卒業。社会福祉法人桃仁会理事長、医療法人サンメディコ理事長。日本認知症グループホーム協会副会長、学校法人弘前城東学園弘前医療福祉大学理事長・学長、日本リハビリテーション学校協会副会長、青森県医師会副会長。</p> |
| <p>来年は診療報酬・介護報酬同時改定があります。昨今、社会保障費の削減がうたわれており、その動向についてよく見極め、より一層取り組んでいきたい。また、地域包括ケアシステムにおける認知症グループホームのあり方について、認知症グループホームの果たす役割がどのように機能するのか、どのように連携するのかを具体的に考え、各支部において活発に活動できるように努力したい。さらには組織力の強化と会員増に取り組み、災害対策の強化、感染症対策の強化、その支援にも力を入れ、一致団結、行動できる協会として活動していきたい。また、介護人材確保、処遇改善、消費税、働き方改革などのあり方について、グループホーム協会としてその内容を検討し、より良い方向に向けて活動したい。</p> |  |

《東北ブロック推薦理事候補者》

|  |  |
|--|--|
| <p><b>小松 利光</b></p>  | <p>1956年7月秋田県生まれ。有限会社ふあいん代表取締役。平成15年1月民家改造型のグループホームを開設、花火の街大曲の中心部でデイサービスや小規模多機能を運営。地域密着型サービス事業者連絡会の理事。</p> |
| <p>グループホーム経営の安定を目指して</p>   |  |
| <p>人材不足に悩ましいさなか、エネルギーを始めとした物価高は小規模の介護サービス事業に大きなダメージを与えております。しかしながら、グループホームは地域の認知症ケアの重要拠点であることを認識し、その役割を果たして行かなければなりません。私たちが経験と努力で築き上げてきた認知症ケアは、日本の未来を支えることに繋がると考えております。会員の皆様と共に情報を共有し、工夫と行動力で前に進んでいきたいと考えます。</p> |  |

《東北ブロック推薦理事候補者》

|   |  |
|---|--|
| <p><b>今野 秀吉</b></p>   | <p>1964 年生まれ 福島県出身 社会福祉士 特定非営利活動法人豊心会 理事長 平成 12 年より認知症グループホーム 4 事業所を含め、居宅サービス、地域密着型サービス 9 事業所を運営。平成 15 年より平成 30 年まで福島県認知症グループホーム協議会副会長</p> |
| <p>これからのグループホームの課題</p>  |  |
| <p>2025 年問題も目前に迫り、2040 年にはその支え手である介護職が約 70 万人不足することが見込まれています。少子高齢化の進展ばかりではなく、昨年からの世界情勢の大きな変化による物価高騰、他業界の賃上げも大きな影響を及ぼしており、このような状況下にあつてグループホームの健全な事業運営と介護職員の人材の確保と処遇の改善という大変難しい課題に私たちは直面しています。次期介護報酬改定では協会としても様々なエビデンスを提示しながら粘り強く丁寧に対応し、今後も安定した運営ができるよう、実情に即した改定となるように努力してまいります。現在、協会の組織率は約 20%ですので、こういった協会の活動を会員外の方にもきちんとお伝えして多くの皆様にご協力いただき、会員としてご加入頂けるようにしていかなければなりません。地域の認知症ケアの拠点づくり、ケアの質の向上と同時に、職員の処遇改善と負担軽減、人材不足の解消、人材育成、働き方改革等の課題についても協会の組織力と全国の様々な団体との横断的な連携強化によって取り組んでいきたいと思ひます。思いを一つに力を一つに。これからも協会の一員として「つなぐ」、「伝える」ことを大切にしていきます。</p> |  |

《関東・甲信越ブロック推薦理事候補者》

|   |  |
|---|--|
| <p><b>田邊 恒一</b></p>   | <p>1972 年東京都生まれの千葉県育ち。有限会社ウェルフェア代表取締役。グループホーム、小規模保育事業所を運営。千葉県支部長、ちば地域密着ケア協議会理事。認知症介護指導者、介護福祉士、ケアマネジャー、認知症ケア専門士。趣味は晩酌とジョギング</p> |
| <p>グループホームを守るための活動に力を尽くしたい</p>  |  |
| <p>前期は、関東・甲信越ブロック理事の一人として活動させていただきました。協会内では、教育・研修委員として、支部アンケートの分析や会員事業者・職員向けの研修教材の作成等に携わらせていただきました。また、協会の代表として厚生労働省の令和 4 年度老人保健健康増進等事業である「BPSD の予防・軽減等を目的とした認知症ケアモデルの普及啓発に関する調査研究」、「認知症の認知機能、生活機能の評価尺度のあり方に関する調査研究」の検討委員として活動させていただいたところです。</p> <p>グループホームは、認知症の人が住み慣れたまちで安心して楽しく暮らし続けていくためには必要不可欠だと考えております。認知症の人の生活の場であるグループホームを守るための協会の様々な活動に今後も力を尽くしていきたいと思ひているところです。</p> <p>また、今期は創立 25 周年記念全国大会が東京で開催されます。「ともに見つめ直そう！グループホームの未来に向かって～認知症との共生をめざして～」のテーマのもと、記念大会にふさわしい内容が予定されております。本大会が会員事業者の皆様にとって実りあるものになるよう、関東・甲信越ブロック理事として精一杯取り組んでいく所存です。</p> |  |

《関東・甲信越ブロック推薦理事候補者》

|  |   |
|--|---|
| <p><b>宮長 定男</b></p>  | <p>出身は北海道。高校総体の「登山」の部をめざす競技登山と、生徒会活動で育てられました。写真は、小学生時代からフィルム現像から引き伸ばしを手がけ、中学からは音楽鑑賞と吹奏楽が趣味になりました。現、社会福祉法人泉湧く家理事長、豊島区民社会福祉協議会理事等</p> |
| <p>「GH の良さ、ならではのケア」に挑戦しつつ、新たな課題と要望に応えられる事業者団体に！</p>  |   |
| <p>介護保険制度ができて 23 年、私たちの事業は様々な面で発足時とは違う課題に直面しています。人材不足・人材難、さらに物価高騰や光熱水費の負担増は一層深刻さを増しており、小さな規模で運営するグループホーム事業は、これまでにない困難や厳しさに直面しています。</p> <p>また、認知症ケアへの熱い思いと、事業の社会的な意義を感じて参入した事業者の方々の、高齢化と事業承継者の不在。さらには当初に多かった民家改修型事業所の老朽化による大規模改修等の必要性の増大など、認知症 GH をめぐる新たな課題も急速に浮上してきています。</p> <p>こうした課題に直面しながら、事業者団体である協会活動をどのように発展させるべきか、これまでの活動を踏まえながらも、新たな課題に挑戦しなければならない時期にあると思ひます。もちろん介護報酬の改定を控え、協会はすべての GH 事業者の先頭に立って取り組まなければなりません。</p> <p>それらの課題に挑戦するうえで、心して絶対に離してはならない視点は「GH に求められる本来の良さ」であり「GH ならではのケアの追求」であると私は確信しています。</p> <p>そうした思いを共有する全国の仲間の皆さんと、力を合わせて活動したいと考えています。</p> |   |



《関東・甲信越ブロック推薦理事候補者》

|   |  |
|---|--|
| <p><b>江頭 瑞穂</b></p>   | <p>昭和31年生 神奈川県出身 学習塾講師などを経て昭和62年介護福祉士養成施設の設立、経営に携わる。平成8年、株式会社日本アメニティライフ協会を設立し、グループホームを中心とした施設系介護事業に取り組む。現在、同社代表取締役会長兼社長。</p> |
|   |  |
| <p>社会保障分野のみならず、国全体の問題として、異次元の少子化対策、子育て支援などが喫緊の課題とされ、その財源を巡っては高齢者偏重を是正すべきとの声も上がり、財務省の財政制度等審議会財政制度分科会では介護の改革の必要性が云われています。</p> <p>また20年間ほとんど動かなかった平均賃金がじりじりと上がり始め、介護人材不足に拍車をかけるのではないかと不安を感じる情勢にもなっています。さらには、コストプッシュ型のインフレに引っ張られる形で物価も上昇基調にあります。</p> <p>一方、認知症基本法の成立も目前に迫り、社会の中で認知症が特別のものではなく、如何に共生していくか、様々なところでその試みが始まっています。</p> <p>私たちグループホームは、事業所としての経営と認知症ケアの質、それに共生を目指して地域とどう関わっていくのか、課題の多い時代になりましたが、協会としてこれらにどう取り組んでいくのか、会員の皆様と協力し合っ一つ一つ進めていくことに微力ですが貢献したいと思っています。</p> <p>直近の問題としては来年4月の報酬改定対策に尽力します。</p> |  |

《東海・北陸ブロック推薦理事候補者》

|   |  |
|---|--|
| <p><b>畝 和弘</b></p>  | <p>昭和43年石川県輪島市生まれ。日本代表として米国ニューヨーク州に一年間留学。衆議院議員政務担当秘書を経て、現社会福祉法人弘和会理事長。高齢者・障がい者福祉（9拠点25事業）、社会貢献（8事業）を経営。石川県支部長。羽咋市・輪島市事業者連絡会会長。</p> |
| <p>質の高い認知症ケアを考え、地域との協働で、未来のGHを創りあげよう！</p>   |  |
| <p>我が国、日本の社会保障費は年々膨れ上がり、今期の報酬改定においても社会保障費の抑制という大きな命題が示されております。ただ単に小規模事業所の赤字解消の為、GH報酬額を上げて頂きたいという要望は、小規模事業所の大規模化を助長し、小規模事業所にとって決して明るい将来を見いだせるものではないと考えています。私達の行うべき行動は、自らが認知症ケアのあり方をもう一度見直し、小規模事業所だからこそできる認知症ケア、認知症ケアに特化できるサービスならではのノウハウを戦略として、強かに報酬額向上に努力しなくてはなりません。そのキーワードとして「地域との協働」、「日常生活・総合支援事業」が大切になっていくものと考えております。私たちのノウハウを地域に還元し、地域の人たちと一緒に、利用者の皆さん一人ひとりをその人らしく地域で暮らし続けることを応援していくこと、住民主体の生活支援協議体との協働を実践し、地域の中にあるGHとしての拠点機能、相談機能を十分に発揮してこそ小規模事業所としての特徴や存在価値を見いだせるのではないのでしょうか？今こそ、質の高い認知症ケアを共に考え、それぞれの地域で地域協働を行い、未来の共生社会のGHを創りあげていきましょう！！</p> |  |

《東海・北陸ブロック推薦理事候補者》

|   |   |
|---|---|
| <p><b>永田 裕之</b></p>   | <p>愛知県在住。大学卒業後は広告代理店に勤務。平成11年に現在のサポートハウスを設立。翌年、介護保険のスタートと共に名古屋市に2施設、隣の長久手市に1施設のグループホームを開設し、他に共用型デイサービスを2箇所運営。</p> |
| <p>本当の意味での「認知症対応型共同生活介護」を追い求める。</p>   |   |
| <p>平成12年に介護保険がスタートし、その中の一翼として、グループホームも組み込まれました。当初、グループホームに求められたものは何だったのか。どんなことをすれば良いのか。国と共に試行錯誤し、理念や方向性を模索しながら進めてきました。</p> <p>あれから23年以上が経ち、時代の移り変わりと共に、幾度となく法改正がなされ、国が名付けた「認知症対応型共同生活介護」という名はそのままに、我々グループホームに求められるものは、変わってきてしまったと感じています。認知症対応とは何なのか、また共同生活介護とは何を求められているのか。本当の意味で国民に必要とされるグループホームとしてこの先も存在してゆく為には、その根源を追い求めると共に、人材確保の面、介護報酬などの資金面、制度面など、多方面から、今一度見つめ直す必要があると考え、全国のグループホームに携わっておられる多くの会員の皆様と共に知恵を出し合い、考えてゆきたいと思っています。</p> |   |

《近畿ブロック推薦理事候補者》

|   |  |
|---|--|
| <p><b>吉谷 正紀</b></p>   | <p>昭和17年広島市出身<br/>アサヒケアサービス(株) 取締役会長、(株)大興技研 取締役会長<br/>京都介護サービス協同組合 代表理事、京都広島県人会 副会長</p> |
| <p>情報の共有と情報発信</p>   |  |
| <p>介護保険の創設から20年以上が経過しました。それまで、主に家族が担っていた介護が公的に支えられるようになり、女性の社会進出を後押しする効果があったとされます。<br/>しかし課題は山積しております。各地域の行政の対応が違う事もあり複雑になっている気がします。今後、理事会で課題解決に向けての情報共有、支部のみなさんに伝達するという情報発信に注力し、一員であることに誇りが持てるように取り組んで参ります</p> |  |

《近畿ブロック推薦理事候補者》

|                                 |   |
|---------------------------------|---|
| <p><b>河崎 茂子</b></p>             | <p>昭和18年、大阪生まれ。聖心女子大学卒業。介護老人保健施設大阪緑ヶ丘施設長。社会医療法人慈薫会 河崎病院 理事長。大阪河崎リハビリテーション大学企画委員、全国老人保健施設協会常務理事、趣味は旅行と音楽鑑賞。座右の銘は「大胆かつ最新」</p> |
| <p><b>会長立候補所信表明をご参照ください</b></p> |   |

《中国ブロック推薦理事候補者》

|  |   |
|--|---|
| <p><b>三宅 純一</b></p>  | <p>1981年 岡山県生まれ。介護専門学校卒<br/>2008年 株式会社桜梅桃里へ入社 取締役 8事業所のグループホーム運営にあたる。<br/>2023年 日本認知症GH協会岡山県支部支部長</p> |
| <p>会員施設・事業所が入会して良かったと思える取り組みの実践。</p>   |   |
| <p>私は、中国ブロック理事の立候補は初めてとなります。令和5年度は介護保険制度改正と介護報酬改定の内容が決定する重要な年になります。介護施設・事業所の運営状況は、物価やエネルギー価格の高騰により非常に厳しい状態にあります。また、人材育成・確保と認知症ケアの向上や災害対応など様々な課題を抱えています。その中で下記の内容を活動目標とさせていただき努力していく所存です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 安定した事業運営：グループホームの事業者様が安心して経営を継続できるような支援が協会の最も重要な役割であり、介護報酬改定に関する国政への働きかけや経営ノウハウの情報提供・人材確保・育成（外国人材含む）取組方法提供など。</li> <li>2. 認知症ケアの向上：認知症ケアサービスの質的サポート提供</li> <li>3. 情報の透明化：会員の皆様に有益な情報は迅速に伝達する</li> <li>4. 連携強化：各県支部の垣根を超えた研修や災害対策の協力体制の構築</li> </ol> |   |



### 《中国ブロック推薦理事候補者》

|  |  |
|--|--|
| <p><b>野村 陽平</b></p>  | <p>1975年広島生まれ。川崎医科大学卒。医療法人みやうち理事長。広島県佐伯地区医師会理事、認知症サポート医、日本精神神経学会認定精神科専門医、全日本病院協会広島県支部副支部長、広島県慢性期医療協会監事、広島県老人保健施設協議会理事。</p> |
| <p>若い世代に働きたいと選んでもらえる職場にしたい</p>   |  |
| <p>人材確保とケアの質の維持の大変さ、入居者の重度化を日々感じています。私たちの温かいグループホームケアを発揮しつつ、いかに業務改善し、働きやすさと働き甲斐を高められるかが重要です。働きたい職種として子どもたちや学生たちから介護福祉士が選ばれ、働きたい職場としてグループホームを想ってもらえるよう、私たちの魅力を伝え、デジタルトランスフォーメーションも推進し、運営も成り立つよう国や自治体に主張していきます。運営に関わる国や自治体の情報は、グループホーム同士でICTを活用して早く共有し、助け合うことも大切です。また地域に密着したグループホームだからこそ地域の皆さんと日々交流し、認知症や介護の専門性を活かし、いつでも相談を受け、刺激や元気を与え合い、ボランティアや仕事として関与して頂き、災害時には可能な限り助けて頂く共助の関係性を保てる施設と思えます。人材確保については、今後どうしても外国人雇用が必要になります。外国人は働ける幸せを私たち以上に感じ、日本語と技術を習得する意欲が高く、私たちにとっても良い刺激を与えてくれます。若い世代と外国人職員のコラボレーションは、新しい何かを生むのではないかとワクワクします。ぜひ皆さんと意見を交わしながら一緒に実践していきたいです。</p> |  |

### 《四国ブロック推薦理事候補者》

|  |  |
|--|--|
| <p><b>手束 直胤</b></p>  | <p>社会福祉法人有誠福祉会 理事長、医療法人有誠会 理事長を中核にして株式会社等と徳島県内において、有誠会グループを形成し、医療・介護・障がい・保育等の事業を展開中。認知症グループホームは、3事業所（1ユニット、2ユニット×2ヶ所）を運営</p> |
| <p>地域包括ケアの中核事業所として</p>   |  |
| <p>地域における医療・介護・予防・生活支援のネットワークである「地域包括ケアシステム」の構築を目指してきた2025年が間近となってきた。しかしながら、昨今のコロナ禍で、社会生活も崩壊しかけの危機的状況から、やっと、光明が差す寸前である。</p> <p>今こそ、私たちが、地域で培ってきたノウハウを駆使し、地域包括ケアの中核事業所として、地域に寄り添いながら、知識と経験を活かして、健康で安心して暮らし続ける【まちづくり】と、支える【ひとづくり】に今以上に、邁進していきましょう。</p> <p>引き続きのご指導、ご教導をお願いします。</p> |  |

### 《九州ブロック推薦理事候補者》

|   |  |
|---|--|
| <p><b>重永 啓輔</b></p>   | <p>昭和48年福岡県生まれ。株式会社さくら苑代表取締役。法人として現在、福岡県久留米市内においてグループホーム2事業所の運営に携わる。他、特定非営利活動法人久留米市介護福祉サービス事業者協議会理事長、福岡県立高等学校にて非常勤講師を務める</p> |
| <p>安定的な収益確保と人材の確保を目指して</p>  |  |
| <p>介護報酬により事業運営を行える私たち。収入には上限があり、それに伴い介護職員へ支給できる給与にも限度があります。昨今では、あらゆる業種で人材不足が叫ばれ大手企業では初任給の大幅な値上げが行われる状況です。かたや中・零細企業では人手が集まらず「人手不足倒産」という言葉さえ生まれています。</p> <p>私たちグループホームは以前より人手不足でした。いや、介護業界自体が人手不足でした。グループホームは小規模であるからこそ認知症を患った方々に寄り添い生活を支えることを目的にしています。しかしそこに人が集まらないのは労働に見合った賃金を支払うことができない、きつい・汚い・給料安いとのイメージが社会に定着してしまっていることが人手不足の大きな要因ではないかと思えます。高齢化の上昇、認知症高齢者の増加が確定されている現在、グループホームの存在意義は大きいものと確信しています。国内で唯一認められたグループホームの団体として、労働に見合う賃金が支払えるよう、収入が確保され、それに伴い人材の確保が保てるよう会員の皆様と訴えていきたいと思えます。</p> |  |

《九州ブロック推薦理事候補者》

|  |   |
|--|---|
| <p><b>藤田 浩次</b></p>  | <p>佐賀県出身 佐賀県支部長 株式会社ケアフル・ケア 代表取締役<br/>グループホーム、デイサービス、居宅介護支援、小規模多機能、宅老所を運営してます<br/>介護保険サービスだけではなく、保険外のサービスを模索中です</p> |
| <p>九州ブロックを盛り上げたいと思います</p>  |   |
| <p>私の、今回九州ブロック理事候補としての活動目標を設定いたします。理事としての活動は4期目を迎えました。理事の中でも古参と思われます。この間、九州では全国大会の久留米大会が行われ、コロナ禍の中、ハイブリッドでの全国大会として福岡県支部長の下、盛況のうちに終了したと思います。この久留米大会は九州内の支部長の交流の場にもなりました。各役員とのLINEの交換もしました。この支部間の交流を加速させるという事、これが私が今期力を入れていきたいと思っている方針です。コロナ禍の中、オンラインでの研修も普及し、距離を超えてコミュニケーションができるようになりました。先日、佐賀県支部で記念研修会を開催させていただきました。県を跨ぐ研修を行うことが出来、他県からの参加や他県より講師を依頼しての研修が出来ました。これ以後、佐賀県支部での研修は、九州全県の支部長に案内をしております。この交流が、災害が多い九州での災害時の応援体制への広がりも出来ると思っています。今季は九州は一つ!!困ったときは助け合おう!!をスローガンに理事として協会の発展に寄与したいと思っています。各自ブロックの関係強化が協会の盤石化になると思っています。</p> |   |

《九州ブロック推薦理事候補者》

|   |  |
|---|--|
| <p><b>清水 啓宗</b></p>   | <p>長崎県長崎市出身、昭和53年生まれ。医療法人 啓正会 理事長。長崎市、時津町でグループホームを運営。長崎県認知症グループホーム連絡協議会会長、時津長与地区グループホーム連絡協議会会長</p> |
| <p>元気なグループホーム</p>   |  |
| <p>人材不足や物価高騰、人件費高騰(地方では最低賃金の引き上げ)が深刻な問題となっています。人材不足問題が長引くことは、一生懸命働いてくれている職員を疲弊させ、ケアの質の低下につながり、認知症高齢者が安心安全に暮らせる場所がなくなってしまいます。認知症高齢者が安心して暮らせる場所がなくならないようにするために、グループホームが元気であることが重要だと考えています。グループホームが元気であるためにはスタッフが元気であることが大切であると考えていますので、スタッフが元気に働ける環境を作れるように、微力ながら介護職員を中心とした福祉従事者の地位向上を目指していきたいと考えています。</p> <p>物価高騰や人件費高騰など、経営的問題にも協会一丸となり取り組んでいき、元気なグループホームが増えてほしいと考えています。</p> <p>元気なグループホームのために、私も西の果て長崎から活動していきたいと考えています。</p> |  |

《正会員：監事候補者》

|                            |                        |
|----------------------------|------------------------|
| <b>社会福祉法人 緑風会理事長 成田 和博</b> |                        |
| (職 歴)                      |                        |
| 平成 5年4月                    | 社会福祉法人 緑風会 入職          |
| 平成10年3月                    | 平川市東部地区デイサービスセンター寿逢 所長 |
| 平成13年4月                    | 特別養護老人ホーム 緑青園 事業部長     |
| 平成21年3月                    | 社会福祉法人 緑風会 理事          |
| 平成21年4月                    | 特別養護老人ホーム 緑青園 施設長      |
| 令和 3年6月                    | 社会福祉法人 緑風会 理事長         |
| (他団体の役員就任)                 |                        |
| 公益社団法人                     | 青森県老人福祉協会 理事           |
| 公益社団法人                     | 青森県介護支援専門員協会 理事        |
| 社会福祉法人                     | 平川市社会福祉協議会 理事長         |
| 公益社団法人                     | 日本認知症グループホーム協会 監事      |
| 公益社団法人                     | 日本認知症グループホーム協会青森県支部 理事 |
| 青森県社会福祉法人                  | 経営者協議会 副会長             |

《有識者：監事候補者》

|                    |                 |
|--------------------|-----------------|
| <b>公認会計士 江原 慶太</b> |                 |
| (学 歴)              |                 |
| 中央大学専門職大学院国際会計研究科  |                 |
| (職 歴)              |                 |
| 平成19年 9月           | 株式会社ショーワ 入社     |
| 平成20年12月           | 株式会社ショーワ 退職     |
| 平成25年 2月           | 新日本有限責任監査法人 入社  |
| 平成29年 6月           | 新日本有限責任監査法人 退職  |
| 平成29年 7月           | 銀座税理士法人 入社      |
| 令和 1年 6月           | 銀座税理士法人 退職      |
| 令和 1年 7月           | 江原慶太公認会計士事務所 設立 |
| (他団体の役員就任)         |                 |
| 一般社団法人             | 日本病院薬剤師会 監事     |



《河崎茂子会長候補者 推薦学識理事候補者》

|   |  |
|---|--|
| <p><b>安藤 高夫</b></p>   | <p>東京都出身。日本大学医学部卒業。医療法人社団永生会理事長。日本認知症グループホーム協会社会保障・介護報酬対策委員会委員長。現在、東京都病院協会副会長、全日本病院協会副会長、日本慢性期医療協会副会長。</p> |
| <p>認知症グループホームの経営安定化に向けて</p>   |  |
| <p>河崎茂子会長候補から学識理事としてご推薦をいただきました。<br/>         認知症施策推進大綱が策定され、認知症基本法の制定を目指す動きが活発化する中、社会保障政策を巡る議論から目を離せません。特に来年度は介護報酬・診療報酬・障害福祉サービス等報酬のトリプル改定の年であり、2025年を目途とした地域包括ケアシステム構築の最終仕上げのための改定となります。認知症グループホームにとっても重要な年になることは間違いありません。<br/>         過去の報酬改定においては、河崎会長の強いリーダーシップのもと緻密な調査による説得力あるエビデンスをもって介護報酬改定にあたり、認知症グループホームの将来像づくりをすすめてきました。認知症の方々が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けていくために、認知症グループホームはなくてはならない存在です。これからも、認知症グループホームの経営安定化に資する政策、より進んだ規制緩和を提言し、ご利用者様やそのご家族、行政、さらには国民の皆様様に信頼される認知症グループホームとなるよう取組んでまいりたいと思います。</p> |  |

《河崎茂子会長候補者 推薦学識理事候補者》

|  |  |
|--|--|
| <p><b>唐澤 剛</b></p>   | <p>1980年厚生省入省。1997年介護保険制度準備室次長、2014年保険局長、2016年内閣官房地方創生総括官。2018年佐久大学客員教授。2021年社会福祉法人サン・ビジョン理事長。2021年6月より当協会副会長。</p> |
| <p>認知症グループホームを我が国の地域包括ケアの拠点にしていきましょう</p>   |  |
| <p>新型コロナが5類感染症に移行し、一律の対応は求められなくなり、事業者の自主的な判断と取組みに委ねられることになりました。しかしながら、ご高齢の利用者の皆様をケアする私たちの現場では、引き続き感染に関する警戒を緩めることはできません。他方、深刻な物価高騰が継続しており、グループホームを取り巻く経営的な環境は、極めて厳しくなっています。また、これまで職員の処遇改善に努力を重ねて来ましたが、今季の春闘における賃上げは3%を超え、介護・福祉事業と他産業との賃金格差は拡大する傾向にあります。このような諸情勢を踏まえ、認知症グループホームが、引き続き良質なサービスを提供するとともに、安定した健全な経営を行うことができるよう、物価高騰対策や処遇改善など必要な政策を早急に政府に求めていく必要があります。<br/>         新人口推計が公表されましたが、私たちは、過去20年間の人口構成の大変化に対応し、認知症グループホームと専門性を持つ認知症ケアに関する信頼を築いて来ました。認知症グループホームが、地域包括ケアのネットワークにしっかりと位置付けられ、地域の認知症ケアの拠点となっていくために、引き続き、会長の下で一致団結して共に進んでまいりましょう。</p> |  |

《河崎茂子会長候補者 推薦学識理事候補者》

|   |   |
|---|---|
| <p><b>佐々木 薫</b></p>   | <p>社会福祉法人仙台市社会事業協会理事、仙台楽生園ユニットケア施設群グループホーム楽庵施設長。一般社団法人全国認知症介護指導者ネットワーク副会長、日本認知症ケア学会東北地域部会長、仙台市認知症対策推進会議副会長、認知症介護研究・研修仙台センター運営委員</p> |
| <p>相互支援体制の確立と人材育成を推進！</p>   |   |
| <p>日本認知症グループホーム協会には、2011年より、理事、副会長、常務理事として法人運営に参画しています。また、各委員長・副委員長等を数多く拝命し、とくに「資格制度」、「教育研修」、「全国大会」等の人材育成部門を担ってまいりました。ここ三年間は、新型コロナウイルスの影響で、皆様と直接触れ合う機会が激減しましたが、その分、オンラインでの研修や会議が充実してまいりました。何時でも何処でも学習する機会を設けられるように、映像教材等の開発を推進してきましたし、研修に参加しやすいようe-ラーニングの活用やZoom等のオンライン研修に切り替えてきました。集合研修には出せなくても、自宅や自事業所で何時でも参加でき、身近なところで人材育成が行えるように環境整備を行い、グループホームケアのスキルアップを図っていきたくと考えています。そして、グループホームケアに自信と誇りが持てるように、職員のモチベーションや質の向上を目指してまいります。</p> |   |



《河崎茂子会長候補者 推薦学識理事候補者》

|   |   |
|---|---|
| <p><b>武久 洋三</b></p>   | <p>昭和17年生まれ、岐阜県立医科大学卒業。医療法人平成博愛会理事長。病院や介護施設など100近く運営する平成医療福祉グループ会長。日本慢性期医療協会名誉会長。厚生労働省社会保障審議会医療保険部会委員、社会保障審議会介護給付費分科会委員等の公職を歴任。</p> |
| <p>私は40年にわたり、主に慢性期の高齢患者を受け入れる病院・施設運営を行ってきた。開設した病院の周辺にはグループホームをはじめとする介護保険施設を併設し、病院での治療を終え症状が軽快しても自宅に帰ることのできない患者を受け入れてきた。2000年の介護保険制度施行以来、介護系施設の入所定員が全国で120万人分以上増えた。これは病院を介護施設の代わりとしていた社会的入院患者が、病院の4人部屋以上の、狭くて、暗くて、汚い病院から、個室で療養環境に恵まれた施設へどんどん移っていったからである。しかしながら現在は、病院病床の利用率も介護保険施設の利用率も低下している。特に4人部屋が空いているようである。私は「介護保険施設の居室は全室個室とすべきだ」とさまざまな場で主張している。そしてグループホームは原則個室であることが要件化されている。だがグループホームの経営状況は赤字施設割合が3割を超えている。小規模であり、個室であるがゆえに人を多く配置する必要があり、人件費がかさんでしまう。</p> |   |
| <p>認知症を抱える入居者が仲間と一緒に良質な個室環境で暮らしていけるグループホーム運営を継続していけるよう、よりいっそう働きかけていきたいと考えている。</p>   |   |

《河崎茂子会長候補者 推薦学識理事候補者》

|   |   |
|---|---|
| <p><b>松原 六郎</b></p>   | <p>昭和26年生まれ。東京慈恵医科大医学部卒業。公益財団法人松原病院代表理事。公益社団法人日本精神科病院協会常務理事。公益社団法人認知症のひとと家族の会福井県支部代表。認知症疾患医療センター長。公益社団法人福井被害者支援センター理事長。</p> |
| <p>2023年認知症の人が地域で安心して暮らしていくために</p>  |   |
| <p>現在、我が国は、65歳以上の5人に一人が認知症患者になると言われている「2025年問題」に直面しています。2025年までのカウントダウンはもうすでに始まっており、厚生労働省が令和元年6月に発表した「認知症施策推進大綱」の施策推進の年が今年度です。</p> <p>この大綱では、「認知症のひととその家族を重視しながら共生と予防を車の両輪として推進」と明記されており、この中でもグループホームの立ち位置は重要視されています。</p> <p>新型コロナウイルスの分類が2類から5類相当となった今、認知症のひとと家族と地域社会との関わりを復活させ、共に地域で暮らしていく支援が必要です。</p> <p>この度、光栄にも学識理事候補に推薦頂きました。これまでの認知症の活動の経験を踏まえ、本会の更なる発展に尽力したいと考えております。</p> |   |

《河崎茂子会長候補者 推薦学識理事候補者》

|  |  |
|--|--|
| <p><b>山本 教雄</b></p>  | <p>京都府出身。株式会社学研ホールディングス 取締役 医療福祉担当。メディカル・ケア・サービス株式会社 代表取締役社長、一般社団法人全国介護事業者連盟 理事。</p> |
| <p>介護保険制度の持続と職員の処遇向上に向けて</p>   |  |
| <p>3年の長きに渡るコロナ禍もようやく収束の兆しが見え、徐々に社会が動き始めました。振り返ると、この大きな環境変化の中で、我々の介護という仕事の存在価値の高さを再認識すると共に、介護の在り方についても改めて考える機会になったように感じています。社会が新たなフェーズに移行している今、介護も重要な過渡期を迎えているのではないのでしょうか。</p> <p>介護報酬は、2024年の次期改定が目前に迫っておりますが、制度創設時とは社会情勢や技術背景が大きく変化しています。GHにおいても、品質や安全性を担保する条件を組み合わせながら、人員配置や資格要件などは一定の緩和を進めていく必要があると考えております。今後は、デジタル技術を活用するなど、一人当たりの生産性を向上させ、サービス品質を保ちながら多くの高齢者を支援する仕組みを作り出すことが必要です。そして、何よりも重要なのは、その成果を上げた介護職員への十分な報酬評価と更なる処遇の向上です。限られた人材と財源の中で、「制度の持続」「処遇の向上」を実現するためには、我々介護事業者が引き続き、法人の枠を超えて活動していくことが重要であると考えております。</p> <p>皆様とともに、GHが地域であるべき役割を果たせるよう活動して参りたいと存じますので、よろしくお願い致します。</p> |  |





